

1. はじめに

北竜町では、令和2年3月に、今後の学校施設整備や維持管理等の方針について定める北竜町学校施設長寿命化計画、令和5年3月には、学校施設整備をはじめとして町中心部における公共施設の集約・再編等の方針や構想について定める北竜町公共施設再配置計画を策定したところです。

これらの計画に基づき、令和11年度に新校を開設し、令和13年度からは多目的複合交流施設として新施設を開設するため、学校等施設の機能や諸室配置など学校等複合施設の整備に向けた具体的方針を定める北竜町学校等複合施設基本計画(以下「本計画」という。)を策定します。

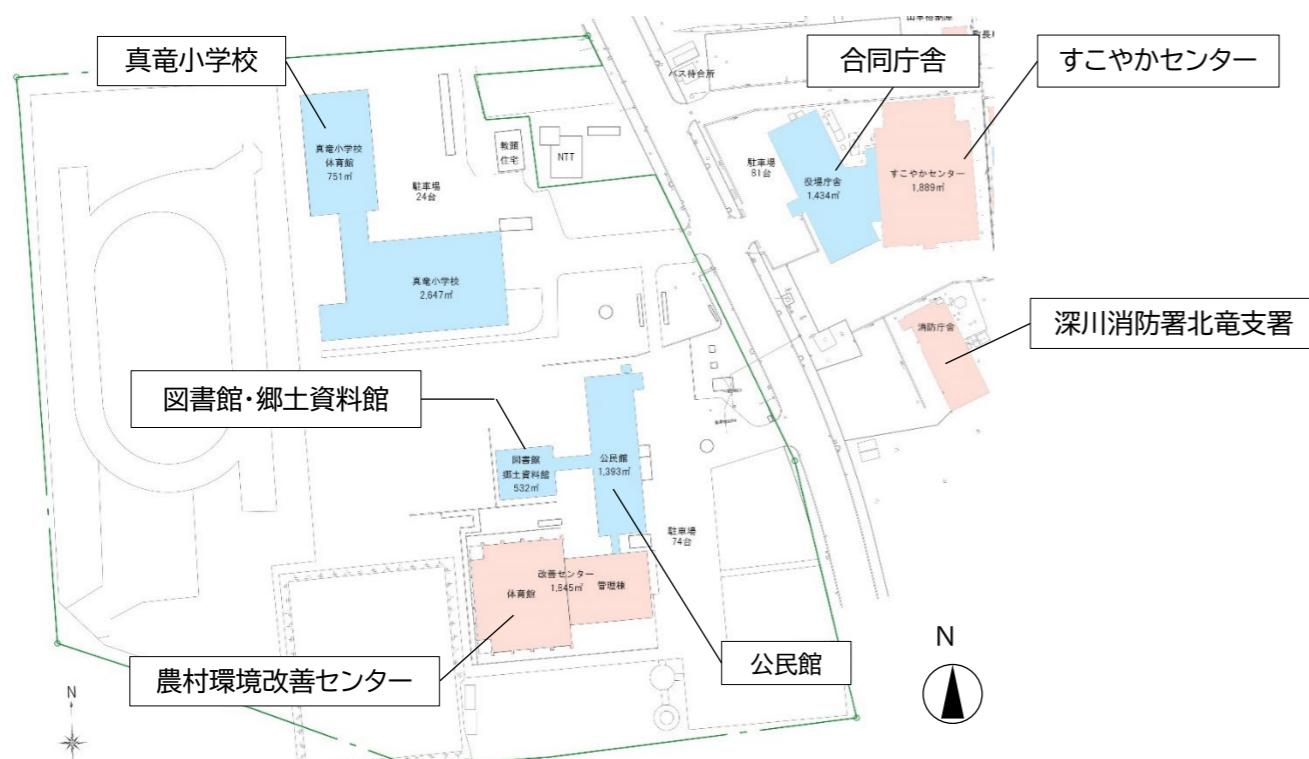
2. 再整備施設

本計画で対象となる再整備施設は、「北竜町公共施設再配置計画」を踏まえて、真竜小学校、北竜中学校、公民館、図書館、郷土資料館が対象となります。

番号	分類	建物名	建設年度	経過年数	老朽度	構造	延床面積(m ²)	耐震化要否
1	学校	真竜小学校(校舎)	1970	54	115%	RC	2,647	実施済
2		真竜小学校(体育館)	1970	54	115%	SRC	751	実施済
3		北竜中学校(校舎)	1975	49	104%	RC	2,606	実施済
4		北竜中学校(体育館)	1975	49	104%	SRC	880	実施済
5		北竜中学校屋外物置・部室	2001	23	153%	W	109	不要
6	文化施設	公民館	1971	53	106%	RC	1,393	未実施
7	図書館	図書館	1986	38	76%	RC	282	不要
8	博物館等	郷土資料館	1986	38	76%	RC	250	不要

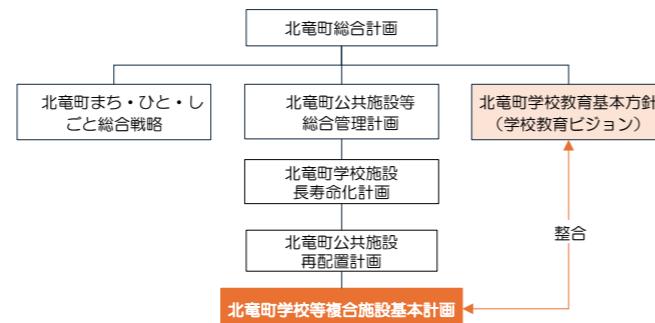
維持する施設

-	スポーツ施設	農村環境改善センター	1976	48	96%	RC	1,845	実施済(H25)
---	--------	------------	------	----	-----	----	-------	----------



【本計画の位置づけ】

本計画は、町の上位計画である「北竜町総合計画」や「北竜町まち・ひと・しごと総合戦略」、「北竜町公共施設等総合管理計画」、「北竜町個別施設計画」「北竜町学校施設長寿命化計画」を踏まえながら、「学校教育基本方針」との整合を図ります。



3. 目指すべき施設のあり方・基本方針

「北竜町公共施設再配置計画」で示す方針等を踏まえて、目指すべき施設のあり方・基本方針を次の通りとします。

①多目的複合交流施設の整備による学校を核とした「地域づくりの拠点」

- 学校と公民館、改善センターを複合化し、子どもから高齢者まで、気軽に集まれる場所、来やすい場所となる身近で日常的に活用可能な施設とします。
- 「学校教育の場」と「社会教育の場」を複合化し、児童・生徒と地域住民との交流できる機会を創出することで、子どもたちへの多様な学習機会の創出、地域交流の活発化やコミュニティの強化を促進し、学校を核とした地域づくりの拠点の形成を目指します。
- 町の財政にとっても、各諸室の相互利用によって効果的・効率的な施設整備とし、面積・事業費を削減します。

②学習環境の高機能化・多機能化した北竜町独自の学校教育を推進する「学びの場」

- 地域全体で子どもたちの学びや成長を支える基盤とともに、学校と社会教育事業等の連携による北竜町独自の学校教育を推進する「学びの場」として整備します。
- 「学校教育の場」と「社会教育の場」を複合化し、児童・生徒と地域住民との交流できる機会を創出することで、子どもたちへの多様な学習機会の創出、地域交流の活発化やコミュニティの強化を促進し、学校を核とした地域づくりの拠点の形成を目指します。
- 専門性のある人材や地域住民との連携によって学校運営の支援につなげます。

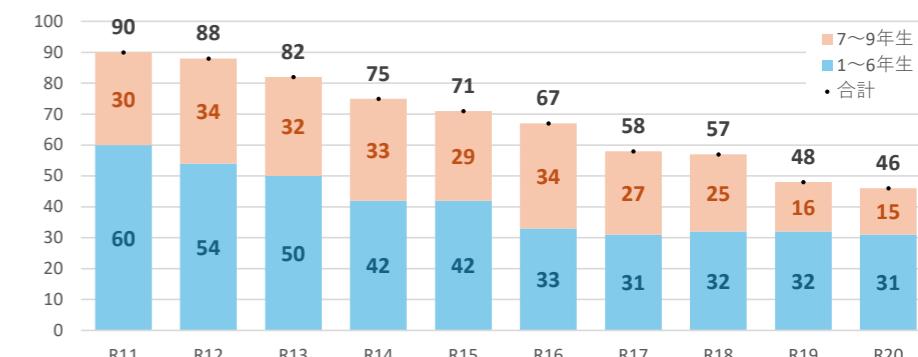
③生涯学習やコミュニティの拠点となる「まちの居場所」

- 子ども達が安心して遊べる環境や放課後に立ち寄りたくなる場、サークル・団体等での活動や生涯学習等の活動の場の整備を通して地域のコミュニティの拠点となり、本施設が子ども達をはじめ、町民にとって家庭や学校以外の居場所=サードプレイスとなることを目指します。
- 施設から離れた場所に住む人も利用しやすいよう、バス等の待合場所の確保や、地域公共交通と連携したアクセス手段について検討します。

4. 整備概要

児童生徒数の将来推計

- 真竜小学校と北竜中学校が統合した9年生の義務教育学校と、公民館・図書館機能を複合し、相互に利用する学校等複合施設を整備します。
- 将来の児童生徒数は、下表のとおり想定しています。これを前提とした具体的な学級編成、教職員組織、教育課程編成等は、本計画の策定後に詳細に検討します。



施設規模

- 「北竜町公共施設再配置計画」において、新小中学校 約4,800m²程度、公民館・図書館・郷土資料館 約1,450m²程度、合計 約6,250m²程度を想定していました。
- 本計画の検討に当たり、検討委員会や教職員説明会等を踏まえ、必要機能とその規模を見直し、義務教育学校 約 5,030m² + 新公民館 約1,870m² = **約6,900m²**と想定します。

5. 配置計画

複合化の考え方

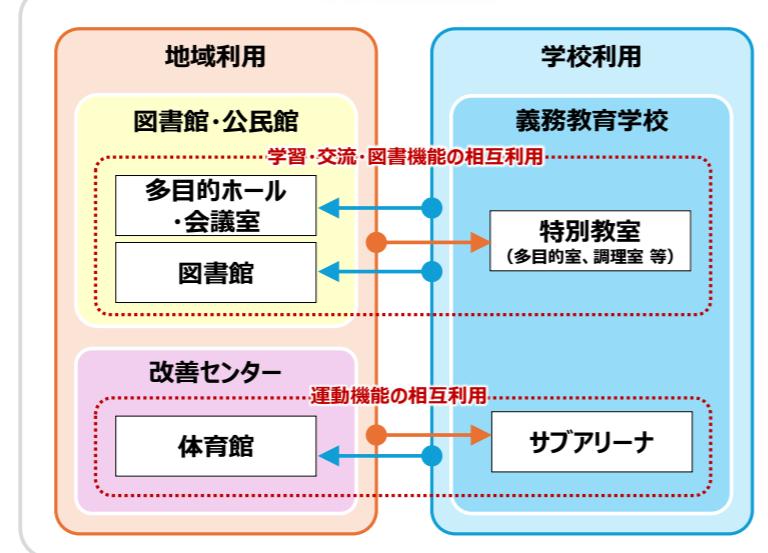
本施設を構成する義務教育学校及び図書館・公民館の機能の複合化にあたっては、図書館・公民館で整備する多目的ホール・会議室、図書館と、義務教育学校で整備する特別教室（多目的室・調理室等）の相互利用と、改善センターの体育館と義務教育学校のサブアリーナの相互利用を図り、地域交流の活発化やコミュニティの強化、効率的な施設整備の実現を目指します。

配置の考え方

- 町民の利便性向上と、子どもの学習環境・安全性を確保した動線計画、配置計画とします。
- 義務教育学校と公民館の相互利用・連携がしやすい位置に特別教室を配置します。
- 学校体育館と改善センターが相互利用しやすい位置に配置します。
- 改善センターの屋根からの落雪に留意し、安全性を確保した配置とします。
- 小中学校、公民館、改善センターの相互利用・連携を想定し、児童・生徒、施設利用者、管理者の利便性に配慮した動線計画とします。
- 図書館と広場がスムーズに行き来が可能な魅力ある空間を形成します。
- 仮移転をする配置計画とせず、施設のローリングにより再編を行う計画とします。



学校等複合施設



6. 施設計画

- 小中学校の普通教室および特別支援教室の採光や景観に配慮した配置とします。
- 浸水想定がされていることから機械室は2階に配置します。
- 適宜、裏口を整備します。
- 保健室、相談室の配置に配慮します。
- サブアリーナと体育館、多目的室・プレイスペースが相互利用できるよう近接した位置に配置します。
- 教室は、教育課程編成に合わせて配置を検討します。
- 家庭科室は、多目的利用することで、多科目の授業で利用可能とし、時代に合わせて柔軟に対応可能なものとします。

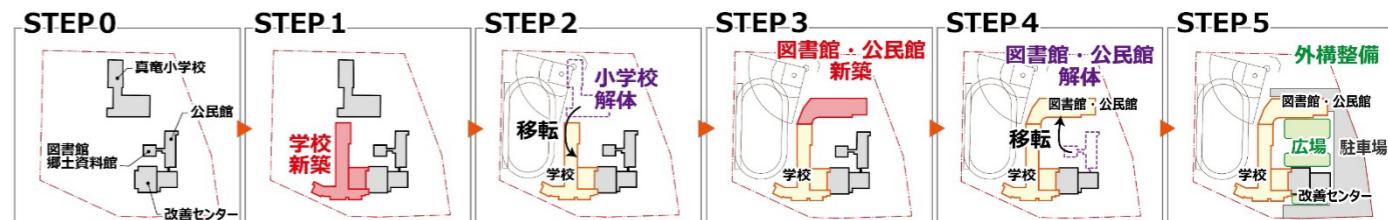
※あくまで現段階の検討案であり、決定したものではありません。
今後設計作業を進める中で詳細を検討していきます。



7. 事業計画

事業スケジュール

【整備手順】



- 新たな小中学校の建替を行い、令和11年度からの供用を目指します。
- 既存の真竜小学校の解体後に、新たな公民館・図書館の建替を行い、令和13年度からの供用を目指します。

概算事業費

設計・監理	2.7億円
建設費	38.4億円
外構等整備費	4.4億円
解体費	4.6億円
合計	50.1億円

※各種調査費、移転費、備品購入費等は含まれていません。

※今後の社会情勢により建設資材の高騰や人件費の上昇などにより変動する可能性があります。